

【日本赤十字社】

明学レッドクロス

1. 本年の活動

今年度は様々な新しい活動に積極的に取り組んだ。これまでは、日本赤十字社の方からお誘いいただいたイベントに参加することが多かったが、2014年度は「中長期的に継続できる活動を定める」ことを目標とし、活動に取り組んできた。現在、3年生1名、2年生2名、1年生5名、計8名のメンバー構成となっており、白金校舎と横浜校舎にわかれて活動している。小規模ではあるが、1年生が多いことから成長性のあるセクションであると考えており、今後1、2年生の主体的かつ積極的な活動に期待している。

2. 戸塚まつり

2014年5月24日（土）に戸塚まつりでのイベントを開催した。これは明学レッドクロスが主体でおこなった初めてのイベントであり、非常によい経験となった。横浜校舎の712教室を使用し、日本赤十字社で働いている方々をお招きして、同社で働くことになった経緯と現在おこなっている活動や世界の現状について様々なお話をしていただいた。また、レッドクロスメンバーもこれまでの活動やこれからの展望についてを話させていただいた。イベントの最後には減災講座を開催していただき、お越しいただいた一般の方々と一緒に災害時に怪我をしたときの対処法（骨折時の固定の仕方）について学んだ。座学ではなく、2人一組になって対処法を実践し、一般の参加者からも「これなら災害時に使えそう」とのお言葉をいただいた。

3. ボラフェスタ in KANAGAWA

2014年10月18日（土）に桜木町にある日本丸メモリアルパークでボラフェスタが開催された。これは日本赤十字社主催の学生の献血イベントであり、関東近辺の様々な学生団体が参加している。例年はボランティアセンターの横浜地域活動のメンバーが参加していたが、今年は明学レッドクロスも一緒にブースを出展した。当日は100名以上の来場者に献血をしていただき、非常に活気のあるイベントとなった。来年度はまた違う形でのイベントとなるようだが、ぜひ主体的に参加していきたい。



戸塚まつり企画参加者集合写真

(学生メンバー 経済学部国際経営学科)

RCV 編集委員会

【はじめに】

日本赤十字社では、毎年ボランティアをする人に向けて「RCV (Red Cross Volunteer)」という冊子を発行している。例年は赤十字社の職員が編集を手掛けていたが、2014年は新しい試みとして、大学生が編集することになった。6月から8月にかけて、私を含めた本学学生の他に青年奉仕団学生、特別奉仕団学生の計12人で話し合い、主なテーマを設定した。今回のターゲットは「学生」である。



編集に参加した学生

【編集過程】

まずは、どのような人に手に取ってもらいたいターゲットを決め、次にどんな記事を書きたいか大まかに決めた。特集ごとにグループに分かれ、グループごとにレイアウトや大まかな内容を決め、各々取材を行った。いろいろな雑誌などのレイアウトやデザインを参考にしながら、記事を作成しさらに表紙や裏表紙についても話し合いを重ね、若者らしさを表現したデザインとなった。



RCV学生対談の様子

【今後の課題】

多くの方の協力のもと RCV の編集を無事終えることができた。今後は、この冊子を一人でも多くの人（若者）に手に取ってもらえるよう、広報活動をする必要がある。SNSなどを活用しながら、一人でも多くの人に読んでもらえるよう呼び掛けを引き続きおこないたい。さらに、来年度の RCV 編集にも協力してほしいと言っていたのでこの活動を継続的なものにしたい。

(学生メンバー 法学部政治学科)

海外たすけあい

海外たすけあいは、災害や紛争、飢餓や病気という困難に直面している人々を救うことを目的にした募金活動で、日本赤十字社と NHK が毎年共同で実施している。

今回この活動に学生として参加したのは、明学レッドクロスその他、神奈川県青年学生奉仕団、上智大学、明治大学から「広げよう海外たすけあい大学」というチーム名で学生に向けて広報をおこなった。Twitter や Facebook 等の SNS の活用、日本赤十字社のイベントでのチラシ配布が主な活動内容であった。

参加したイベントは二つある。10月4日、5日に開催された国際協力への理解を深めるためのイベント『グローバルフェスタ JAPAN2014』では、来場した多くの学生に海外たすけあいを始め、赤十字社の国際活動に興味を持ってもらえた。そして、その場で写真撮影をお願いし、随時 Twitter で更新するなど、同世代が関心を持ちやすくなるように工夫した。

もう一つのイベント『赤十字シンポジウム』では、著名なパネリストの方々のお話を聴き、広報活動を行う学生自身も世界で起きている紛争や危機について考える機会となった。

これらのイベントに参加することによって、私たち学生チームは、より多くのことを学びたいという気持ちが強まり、日本赤十字社の方をお願いをして勉強会を開催してもらった。広報を開始したときには、国際社会で起こっていることや課題について、メンバー一人ひとりに知識の差があったが、学ぶことで徐々に差が目立たなくなっていった。そして知識を深めることで、海外たすけあいの意義をより理解し、積極的に広報活動に携わることができた。

また、実際の募金集めは12月1日から25日に行われたが、明治学院大学と上智大学では、学内募金を実施した。明治学院大学での赤十字関係の募金は初めての試みであった。白金キャンパス4ヶ所、横浜キャンパス3ヶ所の計7ヶ所に募金箱を設置した。回収は明学レッドクロスのメンバーを主体に、海外プログラム事業部のメンバーやボランティアセンターの方々の協力を得て毎日おこなった。最終的に白金キャンパス 3759 円、横浜キャンパス 2761 円、総額 6520 円の募金が集まった。ご協力いただいた皆様に感謝したい。金額としての結果は十分ではなかったが、明治学院大学に「海外たすけあい募金」が浸透するきっかけになったと考える。次年度以降は学内での広報も充実させて、より多くの募金が集まるように努力したい。

今回、海外たすけあいの広報に携わったメンバーは学生が多かったため、全員が揃うことが難しく、思うように活動が出来なかった場面も多くあった。しかし、たくさんの方々がサポートしてくださり、無事に目的を達することができたと思う。今後もこの活動だけで終わるのではなく、多くの学生が赤十字社の国内外での活動を理解し、賛同してもらえるように努めていきたい。

(学生メンバー 国際学部国際学科)